

# 近畿大学式圧迫装具

松浦 良、浅井 淳

[川村義肢株式会社]

小坂 正明、上石 弘

[近畿大学形成外科]

**ケロ**イドや肥厚性癬痕においては圧迫療法が手軽な治療法として知られている。

現在用いられているのはスポンジやサポーターなどを材料とするものが多く使用されているが、概して圧迫力が弱く、固定しにくい。また、前胸部や下腹部など凹凸部位に有効な圧迫材料がない。一方、硬性材料を用いた装具は痛みを伴い、装着が面倒かつ装着感も悪い事などが挙げられる。この様に、さまざまな欠点の為に長期にわたる装着が難しかった。そこで、今回、我々は、近畿大学付属病院形成外科の指導協力の下で1994年より空気圧を利用した圧迫装具を考案し、製作したので製作方法・臨床成績について報告する。

## 【近畿大学式圧迫装具の概要】

圧迫装具は、ウェア部分とバルン部分から構成される。ウェアは高弾性を有する布地を用い、バルンは縦9cm×横3cmのゴム袋を使用した。この袋は血圧計のマンシェットに用いられている製品で、2本のチューブが付いている。1本には送気ポンプを、他方には圧力計を装着し、空気圧を調整できる様に工夫した。